

観光業

業況、売上、採算

今期（2022.7～9）の業況判断DIは64.7で、前年同期（2021.7～9）と比べ117.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

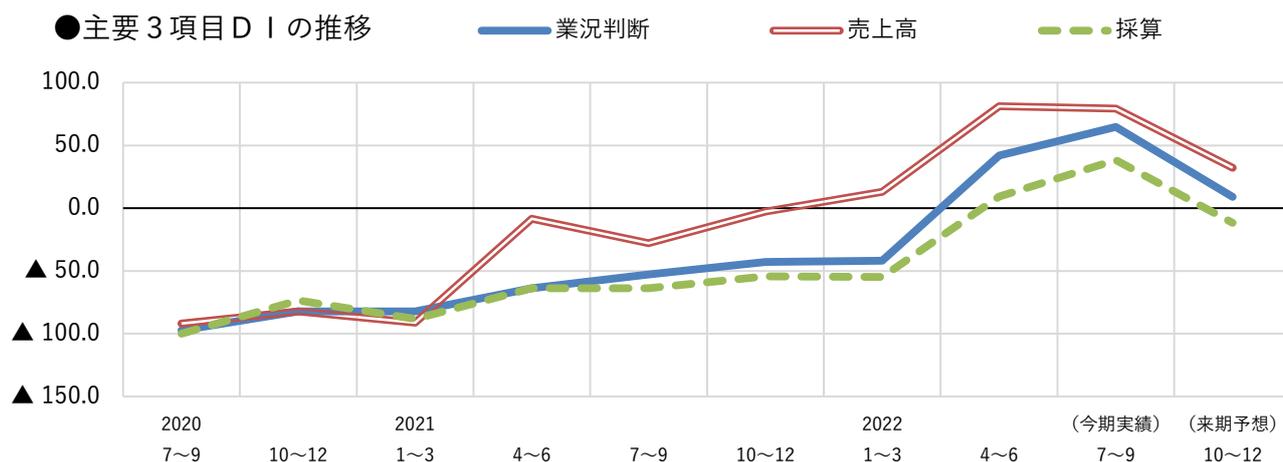
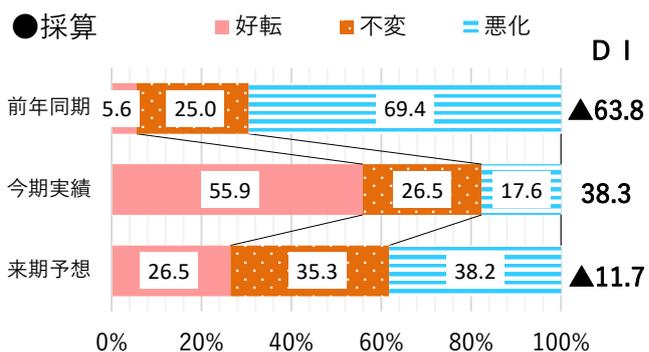
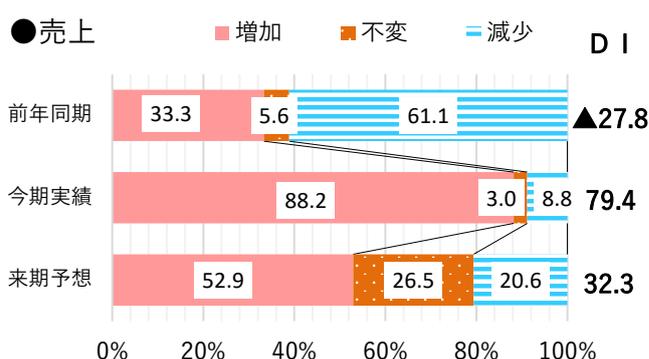
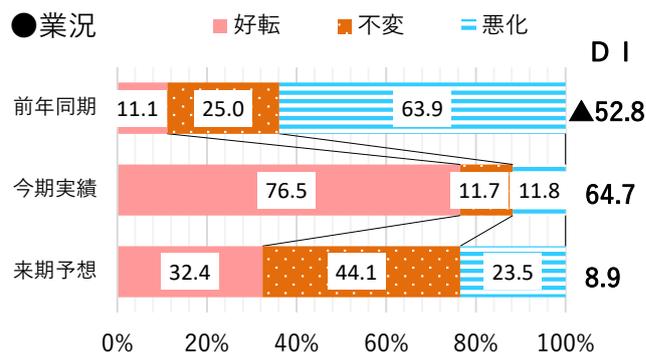
来期（2022.10～12）は、業況の好転傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の売上DIは79.4で、前年同期と比べ107.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の採算DIは38.3で、前年同期と比べ102.1ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

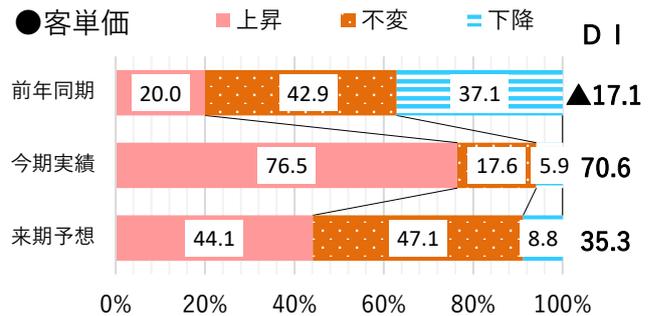
来期は、採算が大幅に悪化し、マイナスに転じると予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

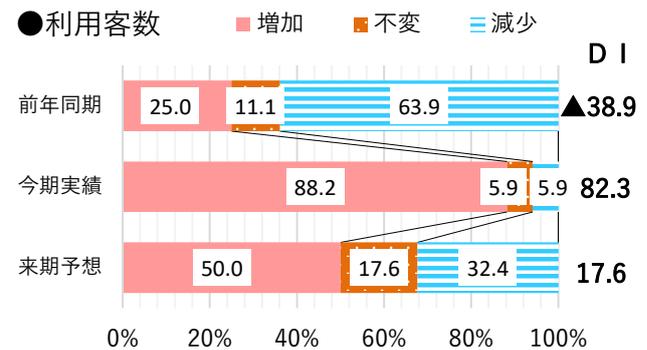
今期の客単価DIは70.6で、前年同期と比べ87.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、客単価の上昇傾向が大幅に弱まると予想しています。



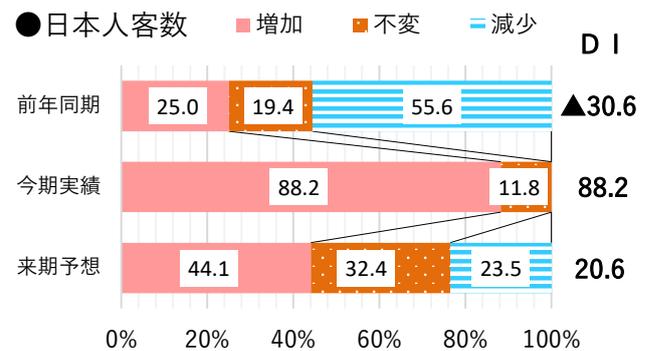
今期の利用客数DIは82.3で、前年同期と比べ121.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、利用客数の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



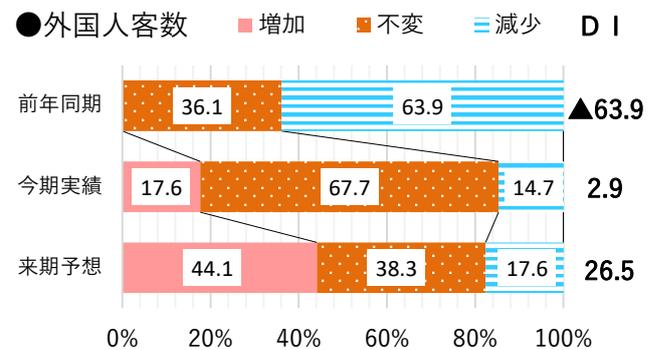
今期の日本人客数DIは82.2で、前年同期と比べ118.8ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、日本人客数の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の外国人客数DIは▲2.9で、前年同期と比べ66.8ポイントと大幅に上昇しました。

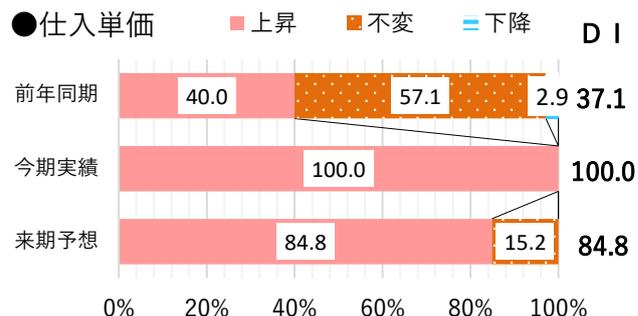
来期は、外国人客数の増加傾向が強まると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは100.0で、前年同期と比べ62.9ポイントと大幅に上昇しました。

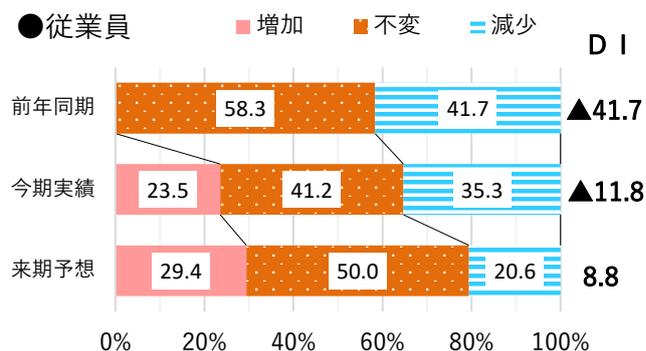
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



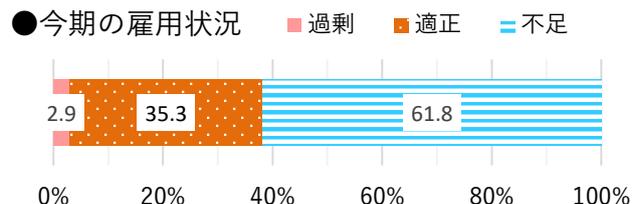
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲11.8で、前年同期と比べ29.9ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は2.9%、適正であると回答した企業の割合は35.3%、不足していると回答した企業の割合は61.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答で、観光業全体の32.3%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	4
	不足	4
不変だった	過剰	0
	適正	8
	不足	6
減少した	過剰	1
	適正	0
	不足	11

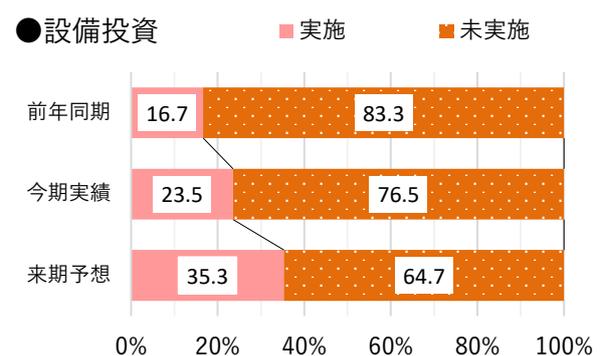
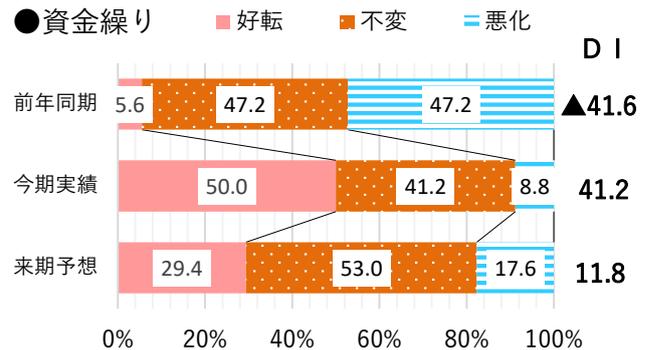
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは41.2で、前年同期と比べ82.8ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。

設備投資を実施した企業の割合は23.5%で、前年同期と比べて6.8%増加しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、2位が「建物」、「付帯施設」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は35.3%で、増加を予想しています。

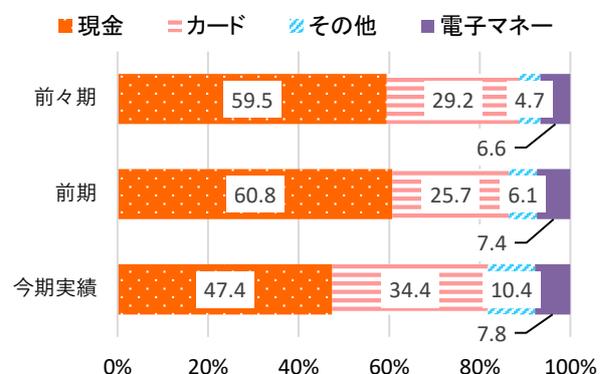


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で47.4%、2位がカードで34.4%、3位がその他で10.4%、4位が電子マネーで7.8%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、銀行振込、クーポン券、プレミアム付き商品券、掛売りです。

●今期利用客の決済方法(%)

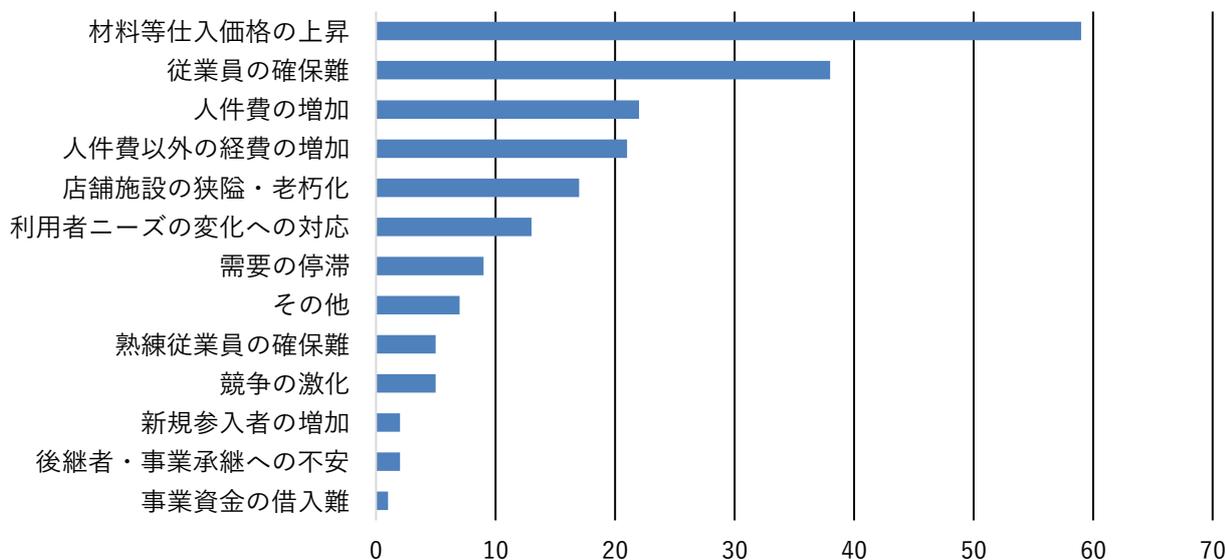


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は72.9%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- オミクロン株の感染者が増加していたが、客数は増加した。8月の伸びが特に大きかった。(ホテル)
- 観光客は戻ってきたが、食材や重油の価格、電気料金等のコスト高で厳しい状況にある。(ホテル)
- 国内需要が回復した。7月以降は仕入価格の上昇や外注費用の増加が続いている。(ホテル)
- 仕入単価の上昇により、大変厳しい状況にある。(ホテル)
- 観光需要が回復に向かっている。(ホテル)
- どうみん割の利用者によって売上が増加した。(コテージ・ペンション)
- 人材確保に苦労している。(コテージ・ペンション)
- 人の動きが活発になり、業況が回復した。新千歳空港と仁川空港の直行便が再開した影響は特に大きく、売上が大幅に増加したが、度重なる仕入価格の高騰が利益率を悪化させた。(飲食店)
- コロナ禍の行動制限がなかったため、道内客を中心に国内観光客が増加し、売上也増加した。観光事業支援のためのクーポン券などの利用者が多く、随分と助けられた。(飲食店)
- 7月はコロナ禍による休業期間があり、売上が伸びなかった。8月は過去10年で最高の売上で、9月も好調だった。(飲食店)
- 昨年同期比で客数が増加した。春に実施した値上げの効果もあり、客単価も上昇した。(飲食店)
- 外出規制がないため、お盆の来客や修学旅行生の利用が多く好調だった。(飲食店)
- 仕入価格の上昇が止まらず、苦しい状況が続いている。(飲食店)
- 7、8月は観光客が増加したため、売上が増加した。(飲食店)
- あらゆる品の仕入価格の高騰や人手不足が課題だ。(飲食店)
- 観光シーズンで売上が伸びた。(飲食店)
- 客層は日本人観光客が主で、客数はコロナ禍前の水準に回復しつつある。(土産品)
- 仕入単価が上昇し、採算が悪化した。(土産品)
- 従業員が不足している。(土産品)
- 道内外の観光客のレジャー利用が好調で、昨年同期の倍近くの売上だった。お祭りやイベント関係の需要もあり、利用客数はコロナ前の水準まで回復してきた。(レンタカー)

- 新型コロナウイルスの感染者数減少に伴い、前年を大きく上回る割合で利用者数が増加していたが、第7波で新規感染者数が激増した頃から増加が鈍くなった。（社会教育）
- 利用客数と売上額は前年同期比で3倍程度まで増加したが、コロナ禍前の2019年度同期の実績と比べると、8割弱までの回復にとどまっている。（水運業）
- 新型コロナウイルス第7波により感染者数は増加したが、行動制限がないことで国内観光客は増えた。仕入価格の高騰で収益は悪化した。（船舶賃渡業）
- 夏の観光シーズンに外出規制等がなく、客数が増えた。新規アクティビティも好調だった。（娯楽業）
- 天候不順や仕入単価上昇等の影響で、業況が悪化している。（娯楽業）

[来期の業況について]

- 閑散期だが11月に新施設が完成するので、それに見合った客数の増加を期待する。（ホテル）
- インバウンドの増加を見込む。仕入価格の増加傾向や、従業員不足が懸念される。（ホテル）
- インバウンドの増加に期待できるが、コストの上昇や人材確保に悩みそうだ。（ホテル）
- 利用者数の増加が見込まれるが、従業員不足と原価上昇が懸念される。（ホテル）
- 離職や採用難により、従業員が不足すると思われる。（ホテル）
- 小樽の宿泊客誘客支援策（とまっ得おたる）による客数増加を見込む。（コテージ・ペンション）
- 施設工事に伴う一部休業を予定している。（コテージ・ペンション）
- 引き続き国内観光客が回復し、外国人観光客も増加するため、業況の好転傾向が続くと見込んでいるが、コロナ禍前と比較して80%の売上、50%程度の利益にとどまると思われる。主要原材料の仕入価格がさらに上昇する可能性が高く、利益の減少を懸念しているが、価格転嫁は難しいと思う。（飲食店）
- 10月はイベントがあるため、売上が伸びると思う。外国人観光客の回復を見込む。人手不足と外国人客に対応するため、翻訳機能付きのセルフオーダーのシステム導入を検討している。（飲食店）
- 売上と客数の増加を見込むが、原材料価格の高騰と最低賃金の上昇により経費が増加するため、大きな回復は難しいと思われる。（飲食店）
- 原材料の仕入価格が高騰しており、採算が悪化すると思われる。（飲食店）
- 円安による材料費や包装資材の大幅に値上がり懸念される。（飲食店）
- 観光シーズンが終わるので、売上は減少すると思われる。（飲食店）
- 引き続き観光客の増加を期待する。（飲食店）
- 仕入価格の上昇が続くと予想する。（飲食店）
- 値上げを予定している。（飲食店）
- 円安で仕入価格の高騰が続くと思われる。（土産品）
- 仕入単価の上昇傾向が続くと思われる。（土産品）
- 外国人観光客の回復に期待する。（土産品）
- 冬は需要が減少するので、前年同期比の売上は増加するが、今期比では減少を見込む。（レンタカー）
- 今後の感染状況や、新型コロナウイルスの流行状況により利用者数が大きく増減すると思われる。入国制限の緩和等、業績を左右する要因を注視したい。（社会教育）
- 今期が繁忙期だったため、利用客数、売上ともに減少が見込まれる。（水運業）
- 入国者数の上限緩和によりインバウンドの増加が見込まれ、新型コロナウイルスの流行も落ち着くと予想されるため、業況が好転すると思われる。（船舶賃渡業）
- 夏の観光シーズンと冬のスキーシーズンの端境期のため、売上は減少を見込む。（娯楽業）
- 今期から好転する要素がないため、業況は悪化または不変だと思われる。（娯楽業）